

パブリックコメントへの対応（本文抜粋）

計画素案から文書内容については、若干の変更があります。

第6節 個性あふれる生涯学習都市づくり

【1】 学校教育環境の充実

1 学校教育の充実

（1）現状と課題

現在、阿蘇市内には、小学校11校、中学校4校、県立高校2校、私立幼稚園2園が設置されています。

このうち義務教育課程である小学校は、総児童数1,531人（88学級）、中学校は、総生徒数898人（32学級）となっています。（H18.5.1現在）

各小・中・高等学校では、学習指導要領に基づいて編成されたカリキュラムを、幼稚園では、幼稚園教育要領に基づいて編成されたカリキュラムを実施し、恵まれた自然環境の中、豊かな心を持った児童・生徒を育てる教育環境が整っています。

学力向上を目指す取り組みとしては、教員の加配（定数よりも多く配置されること）により専科授業やT・T（ティーム・ティーチング）、少人数指導を実施しています。専科授業については、理科・算数等の専門教員が配置され、より踏み込んで充実した授業を実施しています。

また、平成14年度から始まった「総合的な学習の時間」では、地域（国際）理解や情報、環境、福祉健康等従来の教科の枠を越えた学習が実施されています。児童・生徒が自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断することにより、課題（問題）を解決する能力が育成されています。このことは、探究心を高めるとともに、自分自身を見つめ直して、自らの生き方を考える能力を高め、本来の目的である「生きる力」・「確かな学力」を育む授業へとつながっています。

一方、学校教職員の資質及び指導力向上を図るため、学校教育指導主事を配置し、確かな学力向上に取り組む必要があります。

児童及び保護者の就学への不安を解消するための取り組みとして、保育園及び幼稚園と連携を図っています。その一つとして、幼稚園児・保育園児や幼稚園教諭・保育士等が学校行事へ参加することで親睦を深め、保育内容、教育内容の情報交換をしています。今後は、健康面についても連携を密に行い、相互にその対策を講じていく必要があります。

（2）展開する施策の方向性

子どもたち一人ひとりの個性と能力を伸ばすとともに、心身ともに健やかで豊かな心を持つための教育を重視し、基礎学力の充実はもとより、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進します。

真に「生きる力」、「確かな学力」を養うために必要な授業を展開し、教科の枠を越

えた総合的な学習を推進します。

連携学校(園)において幼児・児童の資質及び健康等に共通認識を持ち、一体となって教育活動等を展開します。

(3) 展開する施策

小・中学校教育の充実

パブリック
コメント
2 対応

確かな学力を培う教育を推進するとともに、豊かな心を育む授業に取り組みます。子どもたちが郷土に誇りをもてるような環境教育、体験教育等を実施するため、社会科、生活科、総合的な学習の時間を工夫しながら取り組んでいきます。

児童・生徒の学力向上を図るため、学習発表会や研究授業等に取り組むとともに、教職員の資質向上及び指導力の強化を図っていきます。

特色ある学校づくり、**学校の取り組みが分かる**開かれた学校づくりを推進し、地域と連携した教育を実施します。

パブリックコメント
2 対応

総合的な学習の推進

パブリック
コメント
3 対応

多くの豊かな体験活動等を通して、より効果のある学習となるような授業を展開します。中でも国際理解教育においては、国際化、情報化の時代に対応するために中学校に配置されている外国語(英語)指導助手を小学校にも派遣し、英語や文化を学ぶとともに、**地域の人たちからの支援も得ながら**郷土に誇りを持つための取り組みを今後も推進します。

幼稚園、保育園、小学校の連携

就学前教育に、身に付けさせたい態度や育てたい資質を把握するとともに、その効果的な指導方法を検討します。就学前から小学校低学年を見通し、保育及び学校(集団)生活等のねらいをより効果的に達成するために、長期的な視点に立った連携を推進します。

健康面については、学校等保健委員会と連携を図りながら、家庭や地域を通じて健康づくりの啓発に取り組むとともに、健康・安全教育を推進します。

(4) 指標

指標	指標の算出方法	現状 (H17年度)	5年後の目標値 (H22年度)	10年後の目標値 (H27年度)	備考
学校教育指導主事数	市内における学校教育指導主事の数	0名	2名	3名	

【2】 生涯学習の充実

1 生涯学習の推進

(1) 現状と課題

住民一人ひとりが、生き生きと楽しく心豊かに暮らせるように、生涯にわたり自由に学習する機会を選択でき、自主的に学習を進める環境づくりが求められています。

本市でも、多くの方々が趣味・教養を高め、明るい毎日をおくっていただくために、市施設や各公民館を拠点に生涯学習講座を開設しています。現在は、一の宮地区25講座、阿蘇地区15講座、波野地区4講座、計44の本講座があります。

講座は、自主講座（自主運営）と本講座（市主催）の2種類で、自主講座には、約150人が受講しています。

本講座は、約570人が受講していますが、受講者の固定化がみられ、学習歴の違いから新規受講者が長続きしない傾向にあります。

また、本市には図書館が2カ所、図書室が1カ所あり、誰でも気軽に楽しく利用されています。図書館では、年間約13万冊の貸出しがあり、毎年約6千冊の図書を購入して図書の充実を図っています。図書館の利用が困難な方のためには、移動図書館（阿蘇図書館）も運行しており、年間約5千冊の貸出しがあります。今後は、さらに利便性を高めるために、電算システム等の整備を行い、市内3カ所の図書館の融合が必要です。

また、国際感覚豊かな人材を育み、国際理解、異文化体験、地域間交流などを目的とした特色ある教育活動として、姉妹都市を軸に交流事業が実施されていましたが、今後は、姉妹都市の枠にとらわれない国内外の交流により、国際感覚を身につける子どもたちの育成に努めていくこととしています。

パブリックコメント 4対応

(2) 展開する施策の方向性

市民の自発的な学習活動を積極的に支援するとともに、生涯学習に関する施策の総合的推進を図ります。

生涯学習の長期受講者の自主活動への移行を促すとともに、新規受講者が参加しやすい環境を整えます。

各図書館で所蔵する図書データを一元化し、利用者のサービス向上を図ります。

国内外の交流機会を拡大させ、交流を通じて個性豊かな青少年の育成に努めます。

(3) 展開する施策

生涯学習の推進計画及び体制の整備

生涯学習推進計画については、社会教育委員会や関係機関等と協議しながら作成します。

また、生涯学習を利用する人や学習する人が、学びやすい環境づくりを創出し、学習の成果を幅広く活用できるような推進体制の整備を図っていきます。

生涯学習講座の充実

本講座の実施期間を3年単位とし、修了者については、自主講座への移行を促すとともに、これまで身につけた能力・技術を還元し、地域の文化振興に役立てていけるように支援します。また、自主講座の開設についても支援します。

図書館の利用促進

確実に速い貸出返却、検索、点検などの業務が行えるように「阿蘇市立図書館システム」(仮称)を導入し、3カ所ある図書館間のオンライン化を図ります。

登録をすれば3カ所で利用できる利便性もあるため、住民に利用しやすい図書館を目指します。

移動図書館については、市内全域を対象に巡回し、図書の利用促進に努めます。

児童・生徒の交流事業の促進

行政主導による交流ではなく、地域や民間団体等の結成を目指すとともに、学術、スポーツ、産業など幅広い分野での交流を促進し、国際感覚豊かな児童生徒の育成に努めます。

(4) 指 標

指 標	指標の算出方法	現状 (H17年度)	5年後の目標値 (H22年度)	10年後の目標値 (H27年度)	備 考
住民一人当たり貸出冊数	貸出冊数 ÷ 年度末住基人口 = 1人当たりの貸出冊数	3.95冊	4.33冊	5冊	
生涯学習受講者数	生涯学習講座の受講者数	720人	850人	1,100人	
交流事業数	児童、生徒の交流事業件数	1件	3件	5件	

3 スポーツ・レクリエーションの振興

(1) 現状と課題

近年は、健康・体力の維持増進を図るため、スポーツに対する関心も高まっています。スポーツは、健康づくり、体力づくりに寄与するだけでなく、コミュニティや生きがいづくりにも繋がります。

パブリック
コメント
5 対
応

生涯スポーツの普及により、グループや家族でスポーツを楽しむ愛好者が増えています。本市においても、「市民スポーツ大会」や「市民地域対抗駅伝大会」を開催するなど気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及に取り組んでいます。

本市の社会体育施設は、小学校 11 校、中学校 4 校の体育館とグラウンド、市立体育館、武道場 2 館及びグラウンドがあります。学校施設のグラウンドでは、市内のクラブチームによる野球やサッカー等が盛んに行われています。学校体育館についても、住民で結成しているクラブチームがバレーボール、バスケットボール等の練習に励んでいます。また、アゼリア 21 の温水プール、トレーニングセンターは、会員数も多く、住民の交流の場や健康・体力づくり施設として社会体育振興に大きな役割を果たしています。

総合スポーツ施設として機能を備えている、阿蘇体育館、農村公園あびか、一の宮運動公園等では、合宿や競技大会の利用が多くなっています。しかし、シーズン中は利用が集中するため、一時的に利用が困難となることがあります。今後、利用が増えるにつれ、施設の拡充していかなければなりません。

また、学校の部活動においては、少子化の影響や指導者不足により部活動の組織編制ができなくなり、活動を休止したり廃部するような事態が生じ、子どもたちが本当にやりたいスポーツができないという状況にあります。

一方、成人では運動しているほとんどの人がスポーツクラブに加入しています。これらのクラブは、何らかのリーグに加入している本格的なクラブ活動と、体育協会の種目に参加して活動している人がいます。これらの活動は、比較的私的なつながりによるものが多く、初心者の新規加入は難しい状況にあります。ただ、趣味やレクリエーション感覚で楽しめるミニバレーなどは、各校区や地域で大会も開催されるため、男女問わずの愛好者も多くなっています。

パブリックコメント 5 対
応

高齢者のスポーツ競技として定着しているグラウンドゴルフやゲートボールは、各地域や老人クラブ単位で実施されており、愛好者も多く、市内外の大会に参加している方も多くなっています。

(2) 展開する施策の方向性

屋内外競技施設を拡充し、合宿やスポーツ大会を誘致するとともに、地元住民が気軽に利用できる施設整備に努めます。

生涯スポーツの概念を浸透させるために、講習会やスポーツ教室を実施し、スポーツ・レクリエーションの振興を図るための指導者の育成と確保に努めていきます。

スポーツクラブ組織(総合型地域スポーツクラブ)の設立を目指し、市内全域、全住民を対象にしたスポーツクラブで、地域に根ざしたスポーツの普及・振興を図ります。

パブリック
コメント
5 対
応

(3) 展開する施策

スポーツ環境の充実

総合スポーツ施設の有効利用を図るため、スポーツ合宿等を誘致していきます。また、各種競技間での施設利用の重複をなくすため、多目的広場の整備を行うとともに、民間スポーツ施設の情報を提供します。

住民のスポーツ施設として提供している学校ナイター施設（グラウンド及び体育館照明）の点検や改修を行い、住民のスポーツ活動の拠点づくりを目指し、快適なスポーツ環境の整備を図ります。

生涯スポーツの普及促進

住民の「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、楽しむことができる」環境を目指し、スポーツやレクリエーションを通じた活動や健康づくりなどを行います。

パブリックコメント 5対応

住民の健康・体力づくりを推進するため、スポーツ活動への支援、地域スポーツ推進体制の強化、指導者の育成及び確保、スポーツリーダーバンクを設置することでスポーツ活動への参加促進を図ります。

スポーツへの関心を高め、レベル向上を目指すため、競技スポーツ大会(プロスポーツやハイレベルなスポーツ大会)誘致など促進により、競技スポーツの振興を図ります。

総合型地域スポーツクラブの設立

子どもたちがやりたいスポーツに取り組み、初心者も気軽に新規加入できるよう、体育指導委員を中心に体育協会、その他社会教育団体及び市内有志によって事務局を設置し、総合型の地域スポーツクラブを設立します。

(4) 指 標

指 標	指標の 算出方法	現状 (H17年度)	5年後の目標値 (H22年度)	10年後の目標値 (H27年度)	備 考
体育施設利用者数	市内における体育施設等の年間利用者数	24万6千人	27万人	29万5千人	
市民スポーツ大会参加者数	市民スポーツ大会の参加者数	300人	600人	900人	
総合型地域スポーツクラブ団体数	総合型地域スポーツクラブとしての団体数	0団体	2団体	5団体	